
●

宇ノ鹿 すい

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

。

【Nコード】

N7894N

【作者名】

宇ノ鹿 すい

【あらすじ】

やはり人と関わることが何よりも大切。

夢を見ながら苦痛を体験していく内に怒号が発されるということを何度も繰り返している内に病みつきになり私は発狂しない。なぜならば病みつきになっている内は結局、熱中でできているということだから退屈で無い上に苦痛はどこかにくすぶって残るものだから良いのだ。傷というものはそういう意味では悪く無く、一過性の興奮などというものに比べれば傷は印象として心に残り続けそれが退屈を凌がせてくれるのだから、歓迎しなければならない。一過性の興奮に病みつきになっているあなたはいい加減に傷付くために発狂してみるべきだ、あるいは夢でそういうものを見ることを試みる努力を行うべきかもしれない。枕の後ろに恐ろしいゴキブリの死骸を忍ばせておけば、その夜の夢にはトラウマの連続が現れてあなたの精神は奈落の底に叩き落され壺にヒビが入るのと同じようにあなたの心にも傷がつくかもしれない。それがあなたを唯一無二の苦痛的な見苦しい存在に変換してくれるから、あなた独自の人生がオンラインワンがこれから発展していきます。それじゃ駄目じゃん、孤独になっちゃうじゃん、って気が付いた人は正しく、既に孤独になっている方の洗脳に乗っからない賢いお方だということです。これから先もその老獺さで生きていくべきでしょうね、間違いなく。なぜならば老獺さというものがあれば身はどんどん気楽に変わっていくのだから。老獺さは幸福に繋がるというのは短絡的で、老獺さは余暇を作るのに役立つということではなく、働くことで快感を覚える稀有な人種は老獺さなど身につける必要は無く、ただひたすらに無心に人に使われることだけ目指せば快感を得られるかもしれません。つまりDMってことだけど、そういう生き方も一つだとは思っけどDMって言われたらむかつくだろうから、もっと優しい言い方を考えればいいんじゃない、なんていうとDMの人は怒るだろうから

つと厳しい言い方をしてあげようつって、奴隷つて言い方もありかもとか言つと問題になるよね。老獺さは人付き合いを上手くこなして自らに襲い掛かる労働の義務を他者に少しだけ押し付けることによって余暇を生み出し、その余暇の時間によって幸福を感じるということならばやはり老獺さは重要だ。小説を書くことによって快感を得たいというならば老獺さは必要不可欠ということになる。働きの者に人にかかると上手くことが運ぶかもしれない。それを探すだけで大変だから不幸かもしれないけれど、小説を書きたいならば余暇はどう考えても必要不可欠ですから頑張ることが肝要。それが難しいならば体力を鍛える等の、根本的に己を鍛えるという手段を講じる必要があるかもしれない。肉体的な面では筋トレ。精神的な面では人づきあいの強行。それによって心身は鍛えられ、他人に対しての恐怖をやわらげることに成功し、それによって余裕が生まれ老獺さを身につけることも可能になるかもしれない。それによって余暇が誕生し、小説を書く余裕も生まれるということだが、ここで問題なのは余暇が無くなった時に、『小説書きたい』と思つてしまふことであつて、それによつて生活リズムが乱れて通常の業務をこなせなくなると、他者から見下されることになり無能という烙印を押される可能性も無きにしもあらず。己への自己評価が低下し鬱気味な毎日が続くことによつてさらに疲労は増し、精神は異常をきたし躁鬱や分裂病になつてしまつた時に自害する可能性ももちろんある。そこまで行つてしまふと修復に時間がかかつてしまふから避けるべき、とも言えるし、小説を書くならばそういった病氣にかかることは感受性を高めるから良いという見方もあるかもしれない。勿論、実際には感受性が高まるのではなく鈍るのかもしれないが、やはり精神病というものも一つの稀有な体験という見方をすれば、その人も多少は救われる。何の意味もない、将来何の役にも立たない体験などよく考えれば一つもこの世には無いのだから、要は考え次第だが、だが考え次第ではこの世の全ては意味が無いとも言える。それは日々の神経の調子によつて見方は変わつてくるかもしれ

ないし、或いは毎日一定の見方でしか人生を見れない人よかは、そういった風に毎日気分がコロコロ変わりモノの見方も毎日変動していく人間というのは幸せかもしれない。一つの見方しかないということは単調ということであり、毎日が退屈ということにも繋がる。

退屈な毎日を送る人間の瞳は濁り、いつしか生きている意味を消失し氣力をなくす。あるいは訳も分からず人にやつあたりしたりなど、自分の行動をコントロール出来なくなり他者から嫌われ、人生を上手くやっていけなくなるかもしれない。男にしても女にしても、他者と上手くやっていくということは重要だ。それが出来ないと孤独にまみれてしまい精神を混濁させてしまうあるいは寂寥の氣分に襲われるということになるかもしれないから氣をつけるべきだ。

結局のところ重要なのは幸せになるということだと思ふのだが、しかし幸せになる方法などいくつもあり、何が幸せかということも人によって千差万別であるからして、己の幸福が何かということくらいは考えられるようにならなくてはならない。だから自分で考えるということは重要で、他人を無邪氣に信用している人は危険だからそれをやめるべきだ。他者と他者は常に利害関係で繋がっているということ、忘れてはいけない。人はみんな孤独を恐れるし死を恐れるから、その暗闇から逃れるために毎日努力するのである。無邪氣に考えなしに生きていてネガティブな考えを知らないという人は、傷ついてみるといい。自分にヒビを入れてみるといい。あるいは誰かに入れてもらうといい。そこで刺青を入れるとかリストカットするとかそういう人はマジ愚か。大切なのは人と関わって人がどういうものなのかを知ることです。とにかく大切なのは、これからも人間と関わっていくことは生きている限り逃れられないのだから、逃げるべきではないということ。人がどういふものなのか知りたいならば、知る努力をするべきであり、人間は動物だということも忘れてはならない。そこら辺と忘れる人は、大概なんかが外れてることを言う氣がするけど、これはあくまで氣がするというだけで喧嘩を売ってるわけじゃありません。

夢を見ることは大切で、苦痛を味わうことも大切。他者と喜びに浸ることも大切。それが出来ない人間だという自覚があつて、それを改善することが不可能だというならば、何か吹っ切れる必要がある。何かを犠牲にすれば何かを得られるということがあるから、無理矢理自分の正常さを失わせて狂わせてみれば、何かを駄目にする代わりに何かがよくなる。先人たちの多くは、人生がどういうものかということを得々と語ったりしてきたと思うけど、それと同じように人生をなぞっていくのでは予定調和すぎてつまらないから、自分で予定調和を崩してみるっていうのも楽しいことだと思う。それは自由なことであると同時に、自由とは責任を背負うということでもあるということだから、怖いのも事実だと思う。自由には責任が付く。束縛には依存が引付く。

終了！。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7894n/>

。

2011年11月13日09時35分発行